

第22号



Pearlland Hospital

パール通信

医療法人 猪鹿倉会 パールランド病院



鹿児島市都市農業センターにて撮影。約8,000㎡の大花壇「四季の花園」では、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモス等、季節の花が一面に咲いています。

(撮影:診療技術部職員)

通信のご案内



- 試行錯誤の外国人スタッフ育成
- Dr.によるミニコラム:「認知症患者さんの口腔ケアについて」
- Nrs.によるミニコラム:「よい生活環境とは」
- 外国人スタッフへのインタビュー/燃ゆる感動かごしま大会2023出場
- パールランド病院 病棟紹介

Dr.による

ミニコラム

「認知症患者さんの口腔ケアについて」

パールランド病院 歯科医師 大山 健太郎

誤嚥性肺炎の予防として口腔ケアの重要性が報告されて久しくなります。今回は、口腔ケア時の心構えをお伝えできればと思います。

お口の中の感覚は非常に敏感で、口腔ケアの必要性を理解できない認知症患者さんにとってそれは、不快な侵害刺激でしかありません。ここに口腔ケア時の拒否行動が出てくるのですが、一見意思疎通が困難に思えても、目を見て一人の人間として敬意を持って接する事で拒否行動が驚くほど減少する、という事はかなり実感として感じております。特に患者さんの名前は重要なポイントだと考えており、意思疎通の困難に思える患者さんでも、お名前を呼びかけた時だけはぱっと目を見開いて視線を合わせたり、「はい」と返事をされたりします。どれだけ病気が進行されても、ご自身の名前だけは患者さんの中に潜在的に残られているのだなと感じる瞬間であり、たとえ意思疎通が困難であっても、一人の人間として敬意を持って接する事の大切さをその都度実感させられます。

このように患者さんから教えて頂く事は日々の臨床の中で無数にあり、毎日がその連続です。自分は歯科医師なので、認知症の患者さんを治して差し上げることはできませんが、患者さんから学ばせて頂いた事を大切に次の患者さんに生かす事で、歯科治療を介して世の中に還元させて頂ければと考えています。



Nrs.による

ミニコラム

「よい生活環境とは」

パールランド病院 1病棟2階 病棟主任 富山 宣幸

当院に入職し20年近くになります。様々な患者様と接する機会がありましたが、当院で生活される患者様にとってよい生活環境とは何か？と常に考えています。



私が考えるよい生活環境とは、病院は治療の場ではありますが、患者様が第2の住まいの様に落ち着いて生活ができ、心の安定を保てるような環境を整えることかと思っています。持続的な治療が必要な方、生活環境の調整が必要な方等入院される理由は様々です。入院することで環境が突然変わり、制限を強いられることも多々あります。患者様の思いを傾聴し、家族との調和を図り、少しでも患者様にとって「よい生活環境」を作れるよう励んでいます。

患者様が退院される際に、家族と共に今まで住み慣れた自宅へ笑顔で退院された姿が印象的でした。患者様にとって病院で生活されることが幸せなのか？今まで生活していた環境が良いのか？明確な答えは見つからないかもしれませんが、看護者である私たちが患者様にとって「よい生活環境とは」と常に考え、よい生活環境だと感じてもらえるよう共に寄り添い、要望を叶えられる環境調整を心掛けて行けたらと思います。



試行錯誤の外国人スタッフ育成

パールランド病院 診療技術部長 吉松 昌代（前看護部長）



令和5年4月より、看護補助者としてインドネシアの外国人スタッフが8名入職しました。数回のリモート面接を行い採用が決まってから、当院の介護福祉士の会で業務に関する資料の準備を行い、ロッカールームにはお祈りのスペースを設け、社宅の受け入れ態勢も整えました。どのように接したらいいのか、日本語の理解力はどうか、日本の生活に慣れてもらえるのか等色々と考えていましたが、4月11日に初めて皆さんに会った際、とても素敵な笑顔を見て、鹿児島に来てくれてありがとうと心から思った事を最近の事の様に思い出されます。

全体研修を3日間行い、その後は病棟でのOJTを実施。勤務日のお祈りの時間等は各病棟管理者が本人達と話し合い時間を検討。毎日研修記録を看護部長室で書いてもらい、日々の状態確認も行っていました。

5月には日本の文化の一つである母の日のことを説明し、母国に手紙を送りましたが、3名しか自宅に届きませんでした。手紙の文化がなく、郵便システムの整備がされていないとのことで、日本との違いを感じました。

病棟業務に慣れてきた9月頃より、日本語の練習も兼ねて自宅で日記を書いてもらうようにしました。日記を書くのに大変時間をかけて書いていることを後日知り、心苦しく感じましたが、真面目に努力するお国柄に感動しました。定期的に自前の日本語試験を実施しており、答え合わせの際には珍回答も多く、会場中笑い声であふれています。日本語は日々上達していますが書き取りは苦手なようで、各病棟の患者さんのレベルの違いなどから8名の日本語力にも差が生じてきました。8名が同じレベルになるように個々に合わせた指導が出来ていないと感じており、自前の問題で良いかも検討が必要と考えています。また、半年・1年の節目には感想を書いてもらい、自分の気持ちを表すことは出来るようになっていきます。

仕事に対して前向きに挑戦する姿は、他のスタッフにも良い刺激になっており、言葉や文化の違いを肌で感じることは当院看護部のグローバル化にも繋がっていきと考えています。なによりも患者様の反応が良く、言葉の違和感もなく接することが出来ていることは大変有難く思います。また、コロナ禍では数名の感染があり心配な状況もありましたが、社宅での感染拡大なく治癒に至ったことは、母国で看護の経験もあり、感染対策がきちんと行えるスタッフであると確信しました。介護福祉士の資格を取ることを目標にしており、今後も皆さんを応援していきたいと思えます。



伝統的な布（バティック）で作られたシャツを着た院長先生と集合写真



日本の文化に触れてもらうため、浴衣を着て集合写真

さらなるスタッフ獲得の為、2024年1月にはインドネシアへ直接面接にも行ってきました。皆さん明るくて笑顔が素敵な方ばかりでした。高層ビルや日本でも馴染みのある店もあり、日本と全然程変わらない場所もありましたが、モスクと呼ばれるお城のような綺麗な礼拝場所にはとても目を惹かれました。インドネシアの文化や日本との環境の違い等を直接感じる事が出来たため、とても良い経験になりました。今後、新たに外国人スタッフを迎える際は、これまでの反省を活かして、人材育成に取り組んでいきたいと思えます。



インドネシアのレストランでの写真

～パールでの1年～

外国人スタッフへのインタビュー

令和5年4月にインドネシアから8名の方が看護補助者として入職し、1年が経過しました。働いてみての感想や鹿児島での生活について、話を聞いてみたいと思います。

●名前 ZAKIYA MILADYA CHOIROH (ザキア ミラディア チョイロ)

●当院で働いてみての感想

YouTubeで食事や入浴介助等見ていたが、初めてする事や分からないことも多かった。当院のスタッフが私達の事を理解しようとしてくれて、仕事も優しく教えてくれるため働きやすい。言葉について、早口だと分かりにくいのが、患者さんも含めてゆっくり話してくれる。患者さんに褒められると嬉しくやりがいを感じる。

●鹿児島での生活について

初めて温泉に行き、凄く気持ち良かった。桜もきれいで感動した。ランニングが趣味だが、日本は空気もきれいだ。焼肉も美味しかった。台風にはびっくりした。

●今後の目標、希望等

介護福祉士の資格を取ることを目標にしている。プライベートでは、旅行が好きなため、県内・県外含めて色々な所に行きたい。



●名前 SRI ASRIYANTI (スリ アスリヤンティ)

●当院で働いてみての感想

インドネシアの病院では、患者さんの年齢層が若く、働き方もゆったりしているためその違いに戸惑った。言葉の聞き取りに困ることもあるが、当院の病棟スタッフに色々教えてもらい、定期的に研修会もあるため働きやすい。

●鹿児島での生活について

日本のアイスクリームやチョコはとても美味しい。そうめん流しも美味しかった。外食する際、豚肉やお酒が入っていない料理を探すのが大変。夏はインドネシアより暑く、秋と冬は寒過ぎた。外出時は公共交通機関を利用し困ることはない。

●今後の目標、希望等

介護福祉士の資格を取ることを目標にしている。福岡、大阪、京都等に旅行に行ったが、今後も色々な所に行ってみたい。



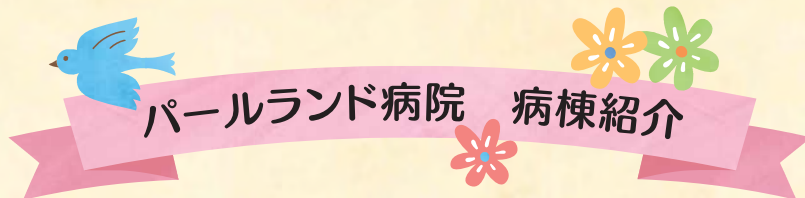
「燃ゆる感動かごしま大会 2023」 ～特別全国障害者スポーツ大会～

昨年10月に開催された標記の大会に、当院看護部職員の森永 創汰さんが出場しました。始良体育館で行われたバスケットボールに出場し、惜しくも予選敗退という結果ではありましたが、競技に打ち込んでいた姿は職員だけでなく、患者さんたちにとっても励みになりました。今後の活動も当院をあげて応援していきたいです。

に職員が出場しました



院長、事務部長、看護部職員等による壮行会の様子



パールランド病院 病棟紹介

当院のベッド数は全部で400床(精神病床300床/医療療養病床100床)あり、病棟は8病棟に分かれています。各病棟の特色や病棟スタッフからの一言コメントをご紹介します。

認知症治療病棟

200
床

認知症治療を主としている病棟で、認知症の進行度や、日常生活動作(ADL)、認知症の行動・心理症状等の状態に応じて4病棟に分かれています。



1病棟2階 病棟師長:山本 主任:富山

身体面の自立度が比較的高く、認知症も軽～中等度の患者さんが多い病棟です。**【患者さん・ご家族の思いに向き合う】**ということを目標に、思いを汲むためのコミュニケーション方法を日々模索しながら、おひとりおひとりのニーズに合わせたプランが実施出来るよう取り組んでいます。

1病棟3階 病棟師長:赤松 主任:松元

車いすやベッドで長時間過ごされる身体的に重度な患者さんが多く、寝たまま入浴できる特殊浴槽もあります。**【穏やかに生活でき、自立部分が維持向上できるよう支援する】**を目標に、患者さんの尊厳を守り、安心して療養生活が送れるよう支援することを心掛けています。

3病棟1階 病棟師長:田崎 主任:有村

認知症の行動・心理症状が特に著しい患者さんや、認知症が進行した重度の患者さんが多くご入院されている病棟です。**【笑顔を引き出せる看護・介護の提供】**を目標に掲げ、日々患者さんと接しています。患者さんが安心して療養できるようサポートしていきたいと考えております。

3病棟2階 病棟師長:森 主任:久保

3病棟1階と同じく、認知症の行動・心理症状が特に著しい患者さんが多い病棟です。集団レクリエーションでは風船バレー等を行っており、多職種で協力し、関係性を築きながらケアをしています。**【安心安全な環境を作り、患者さんを支援する】**を目標に、その人らしく生活することを大事にしています。

精神科病棟15対1

100
床

認知症等の治療と併せて、身体合併症の治療が必要な患者さんを主にお受け入れしています。



2病棟1階 病棟師長:中野 主任:平

点滴や酸素療法が必要な患者さんが多く、看取りの対応まで行っています。疎通が困難な患者さんの表情・視線等からもコミュニケーションを図り、心身の安寧を考えながら**【患者さんの人権尊重と、安心・安全な看護・介護を提供する】**という病棟目標を達成できるよう取り組んでいます。

2病棟2階 病棟師長:安田 主任:中原

身体的な症状、認知症の進行度や行動・心理症状等様々な患者さんがご入院されています。症状や病態にあった病棟での生活を考慮しながら、他病棟への橋渡しの役割も担っています。病棟目標である**【患者さんと職員が笑顔でいられる明るい病棟づくり】**を達成できるよう日々努めています。

医療療養病棟

100
床

パーキンソン病等の神経難病や慢性疾患の治療が必要な患者さんをお受け入れしています。



1病棟4階 病棟師長:前田 主任:盛

車いすやベッド上で医療的な処置が必要な患者さんが多くご入院されている病棟です。身体的な状態の変動がある方も多く、リハビリスタッフと協力しながら、個別性の高い看護・介護の提供を心掛けています。**【常に患者さんに寄り添い、声をかけ、笑顔で支援出来る】**病棟であるように努めています。

1病棟5階 病棟師長:永井 主任:沖田

経口摂取が難しい患者さんや、身体的に介護が必要な患者さんが多くご入院されています。**【一人一人のスタッフが自律した看護・介護が提供できる】**を目標に、日々ケアに取り組んでいます。体調面の観察だけでなく、心に寄り添った声掛けを行い、患者さんと共に人生を歩めたらと考えております。

病院概要

病院名称	医療法人 猪鹿倉会 パールランド病院
指定許可	鹿児島県指定 認知症疾患医療センター
開設	昭和63年3月1日
診療科目	内科 精神科 脳神経内科 リハビリテーション科 歯科 <ul style="list-style-type: none"> ● 臨床研修協力施設（厚生労働省発医政 第0331051号） ● 消化器がん検診精密検査医療機関証（第0085号） ● 日本認知症学会教育施設認定証（施設 第134号） ● 日本老年精神医学会専門医認定施設（認施 第200092号）
病床数	400床 精神病床300床（認知症専門病床200床） 医療療養病床100床
併設	レストラン 売店 保育所（職員専用24時間対応）
関連施設	指定居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション



医療法人 猪鹿倉会

パールランド病院

<https://www.pearlland.or.jp>

〒891-1205 鹿児島市犬迫町 2253 番地

電話／099-238-0301 FAX／099-238-0117

認知症疾患医療センター

電話・FAX／099-238-0168

指定居宅介護支援事業所パールランド 電話／238-0301 FAX／238-0117

訪問看護ステーションパールランド 電話／245-4555 FAX／245-4556